

大多喜町動画コンテスト

受賞者インタビュー

優秀賞 「景勝、栗又の滝」 安永 頼矢さん = 千葉県



https://youtu.be/LOhvi5WP_sE

優秀賞をいただき大変光栄です。僕は大多喜町の隣、市原市の大学4年生です。1年ほど前からCG制作を手掛けるようになり、地方創生や学生限定のコンテストなど合わせて5、6回挑戦してきました。受賞は今回が初めてで、とても嬉しく思っています。

僕の通う東京情報大学は情報系（プログラミング、サーバー、システムが専門）で、動画やCGは学べないため、すべて独学です。CGは海外のYouTubeなどを観て学び、動画は学内の部活（LVT 学生映像技術研究所）に所属して学びました。

大多喜町のコンテストを知ったのは昨年11月頃です。第3回コンテストで、ベルカントアニメ部さんが、アニメ作品で最優秀賞を受賞されていました。僕にとって、これは大きな意味がありました。「僕は、CGでやってみよう」という後押しになりました。

応募を決意してから、改めて大多喜町について調べていきました。栗又の滝のライトアップを観て、インスピレーションが湧いてきました。僕は、映像はモノを作ることよりも、アニメーション、人の動き、映像表現（どう表現するか）を考えるほうが好きなので、滝の流れをCGで表現しようと思いました。

今回の作品では、溪谷の地形、川の流れ、森や木を一からCGで表現しました。一番苦労したのは、描いていたビジョンと違うものが作られたときです。例えば、滝、川が思い描いていた方向に流れなかったときには、イメージと一致するまで何回も作り直しました。登場人物の女性は、「モーショントラッキング」というCG技術で生成していますが、女性の表情や体の動きの「もと」は僕自身です。自撮りしたものをアニメーションに落とし込んでいます。自分で動いてみては撮影を止め、イメージと違ければ、また動いて撮影といった地道な作業を繰り返しています。





最後の山並みのシーンは「プラグイン」という技術を使っています。Google Map と座標で連携させて生成しています。作品が完成するまで35時間くらいかかりました。

この作品を一番観てほしいのは大多喜町の人々です。自分たちの地域のPRになって喜んでいただけたら嬉しいです。また、CG という新しい表現を採り入れている人がいるのだなど、観てもらえたら嬉しいです。

受賞した今、自分自身に伝えたいことは、「今回初めてCGを使って賞がとれた。今後CGを作る中で大変だと感じる時には、今回の受賞を思い出して、自分に自信をもって作品に取り組みなさい」ということです。

将来の夢は、『ゴジラ-1.0/C』を手がけた山崎貴さんのように、脚本もCGも自身で手掛ける映画監督になりたいです。一步一步近づけるよう、4月からは、CGを極めるために専門のスクール（デジタルハリウッド大学 東京本校）で学ぶところです。学校にはモーショントラッキングをはじめCG制作に関する最先端の機材がそろっています。1年間とことんCGに専念して、今まで以上の作品を作れるようになりたいです。

最後に、動画コンテストに興味を持っている方へは、自分のインスピレーションを世の中に出さないのは、もったいないと思います。自分にしかない閃きや思いがあるなら、自信をもって何がしらかたちで出してもらいたいです。



喜びの、
おひざもと。

千葉県 大多喜町